

ルワンダ気候変動等に対するレジリエンス強化事業（ルワンダ・モデルビレッジ事業）

対象国	ルワンダ共和国
事業概要	<p>ルワンダは 1990 年代の内戦が終結して以降、急速な経済発展を遂げており、「アフリカの奇跡」と呼ばれています。一方で、人口の 8 割が暮らす農村部では、高い貧困率、社会インフラの未整備による安全な飲料水やトイレの不足、感染症、そして気候変動の影響による自然災害といった複合的な社会課題に直面しており、首都キガリとの間で著しい経済格差が生じています。</p> <p>日本赤十字社（以下、日赤）は 2019 年、ルワンダ赤十字社（以下、ルワンダ赤）と連携し、災害や貧困に苦しむ人々への支援事業を開始しました。事業対象地のルワンダ南部のギサガラ郡の住民は、安全な水や清潔なトイレが不足し、感染症リスクの高い環境であると同時に、子ども達は遠くまで水汲みに通い、学校に行く機会を奪われています。さらに、気候変動の影響による豪雨、洪水、土壌浸食などの被害が多発しており、効率の良い農業が出来ないことによる慢性的な栄養不足や貧困も問題となっています。</p> <p>本事業では、住民が主体となって地域の様々な課題に取り組む「モデルビレッジアプローチ」という手法を用い、「レジリエンス＝自ら立ち上がる力」を高めます。具体的には、水・衛生環境改善、環境・緑化対策、生計支援、持続性強化の 4 つの分野で活動を実施しています。</p>
事業期間	2019 年 12 月 1 日～2024 年 6 月 30 日（5 カ年事業）
地域・対象	ルワンダ共和国 ギサガラ郡 5 村 900 世帯 3,800 人 (間接的な受益者 1,100 世帯 4,760 人)
目標	ルワンダ国内でも経済的に特に貧しい郡の 5 村において、気候変動の影響と考えられる災害や感染症、貧困などの社会課題に対し、コミュニティの人々が「モデルビレッジアプローチ」を通じて、これらの危機に適切に対応し、将来の危機を予防・軽減するためのレジリエンスを強化することにより、人々のいのちと健康、尊厳を守る。
成果	<p>成果 1 対象コミュニティ世帯が、モデルビレッジアプローチに従って生活向上に共同で取り組み、改善を図る。</p> <p>成果 2 対象コミュニティが、災害リスクの低減と気候変動による影響の緩和に向けた活動に積極的に取り組むようになる。</p> <p>成果 3 モデルビレッジアプローチの取り組みが持続すると共に、成果が文書化され、他の地域にも普及する。</p>
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> コミュニティ世帯による生活向上に向けた取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 保健・衛生に関する知識の普及 貧困世帯への家庭菜園、家畜の提供等を通じた生計支援 トイレ、飲料水設備等の整備 災害および気候変動リスク低減のための活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 調理用燃料の木材利用削減（バイオマス燃料、改良釜等の利用） 山肌の浸食防止対策と緑化事業 ルワンダ赤防災対策チームの強化、コミュニティ防災強化 モデルビレッジアプローチを普及し、持続性を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> モニタリング、評価資料の作成 政府や周辺コミュニティとの連携強化 ルワンダ赤支部の体制強化、ボランティアの養成
事業費総額	103,552 千円